

## 平成 30 年度事業計画書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

公益社団法人 顔と心と体研究会

### 1. 事業活動の概要

年 100 回以上のメイクボランティア訪問、及びメイクボランティア講習会・メイク講座の開催により、メイクを通じた社会貢献活動の拡大を目指すとともに、訪問先施設の協力を得て、メイクの効果に関する調査研究を行い、化粧の効果を科学的に実証することを試みる。研究成果をホームページ等で発表し、化粧の社会的地位の向上を目指す。

新規事業として、外観に問題を抱える患者や高齢者に対してメイクを提供し、それを通じて社会参加・社会復帰を支援する「メンタルメイクセラピスト」資格認証事業を立上げる。各等級の「メンタルメイクセラピスト」が備える技術・知識のレベルを認定・保証し、「メンタルメイクセラピスト」の社会的な地位・信用の確立を目指す。

### 2. 事業活動の内容

#### (1) メイクボランティア訪問・メイクボランティア講習会・メイク講座

##### (ア) メイクボランティア訪問

年 100 回以上のメイクボランティア訪問を実施する。

##### (イ) メイクボランティア講習会

メイクボランティアの養成、員数の拡大、及び正会員の増加を目指して、東京、大阪及び地方都市 1ヶ所で年 4 回開催する。

##### (ウ) メイク講座

###### ● 更正保護法人「両全会」でのメイク講座

「両全会」に入居する自立を目指す女性に対して、就職支援を目的としたセルフメイク講座を実施する。

平成 30 年 4 月 16 日、7 月 23 日、10 月 15 日、平成 31 年 1 月を予定

###### ● NHK 文化センター 青山教室 メイクボランティア講座

メイクボランティアで必要なメイク技術やコミュニケーションの取り方、ボランティアで必要な準備や心構えについてレッスンをを行い、実際にボランティア訪問を行う。

平成 30 年 4 月 28 日、5 月 12 日、26 日

###### ● その他、行政機関・教育機関の依頼に応じて適宜開催する。

#### (2) 調査研究活動

##### (ア) 化粧によるストレス軽減効果に関する長期的観察

肢体不自由児を持つ母親に対する化粧の効果について、平成 28 年 3 月まで、グループ毎に 1 年間にわたる観察を行い、その成果について、平成 28 年 10 月開催のシンポジウムで発表した。今後も、身体障がい・知的障がい等を持つ母親への化粧の効果について、機会を捉えて調査し、データを集積していく。

(イ) 「社会的支援を必要とする高齢者へのメイクアップを用いた高齢者・支援者双方の QOL 向上の試み」

(文化学園大学 応用健康心理学研究室 精神保健学 佐藤浩信准教授との共同研究)

メイクの高齢者への効果を数値データで測ることを試みる一方、高齢者にメイクを提供したボランティアについて、生きがい感、自尊感情、ストレス認知などの変化をアンケートなど、複数のデータ収集方法により調査する。

高齢者に関するデータについては、これまで 70～80 例について収集したので、これをまとめて今年度内に何らかの発表を行う。

また、今年度もデータ収集を継続する。

(3) 普及啓発活動・情報誌等発行事業

(ア) シンポジウムの開催

化粧が与える効果を広く一般人に対して普及啓発するために、「顔と心と体」のつながりをテーマとして公開講座又はシンポジウムを開催する。平成 30 年 9 月頃に開催予定。

(イ) 会報誌の発行・ホームページの更新

当法人の活動状況について周知させるため、会報誌を年 4 回発行し、会員及び医療機関・高齢者施設・公共機関等に配布する。

ホームページの更新を最低月 1 回、月間アクセス 600 の維持・増加を目指す。

(4) メンタルメイクセラピスト資格認証事業

「メンタルメイクセラピスト」資格認証制度について、公益目的事業の変更申請に対する公益認定等委員会による承認が得られ次第、制度委員会において実施に必要な措置について議論・再確認し、各科目講師に対して指示を行い、可及的速やかに制度前認証試験、各級の資格認証試験を下級から順に行う計画である。

(5) その他

(ア) 理事会

以下の日程で開催を予定する。

5 月 24 日 事業報告・決算承認、社員総会招集

6月中旬 (社員総会后) 代表理事の選定

11月 活動状況報告

平成31年3月 事業計画・予算承認

また、必要に応じ、適宜理事会を開催する予定。

(イ) 社員総会

平成30年6月中旬 事業報告・決算承認のために開催予定

(ウ) 規約規程

「会計規程」等を制定予定

(エ) 活動財源

メイクボランティア等の事業収益、会費、寄附金等を充当する予定

以上

平成30年度 収支予算書

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	平成30年度予算合計	当年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受 取 会 費	1,285,000	1,357,000	-72,000
正 会 員 受 取 会 費	1,200,000	1,272,000	-72,000
賛 助 会 員 受 取 会 費	85,000	85,000	0
事 業 収 益	1,620,000	1,820,000	-200,000
公 開 講 座・シ ン ポ ジ ウ ム 事 業 収 益	0	0	0
メ イ ク ボ ラ ン テ ィ ア 事 業 収 益	500,000	700,000	-200,000
メ イ ク 講 座 事 業 収 益	200,000	200,000	0
検 定 事 業 収 益	920,000	920,000	0
受 取 寄 付 金	18,276,000	18,513,500	-237,500
受 取 寄 付 金	18,276,000	18,513,500	-237,500
雑 収 利 益	0	0	0
受 取 利 息	0	0	0
雑 収 益	0	0	0
経常収益計	21,181,000	21,690,500	-509,500
(2) 経常費用			
事 業 費	16,516,000	16,886,000	-370,000
給 料 手 当 費	9,500,000	10,000,000	-500,000
福 利 厚 生 費	500,000	500,000	0
会 議 費	95,000	95,000	0
旅 費 交 通 費	440,000	440,000	0
通 信 運 搬 費	500,000	500,000	0
消 耗 品 費	300,000	300,000	0
印 刷 製 本 費	450,000	450,000	0
賃 借 料	476,000	176,000	300,000
諸 謝 金 費	2,720,000	2,570,000	150,000
渉 外 費	520,000	20,000	500,000
委 託 費	300,000	1,120,000	-820,000
支 払 手 数 料	5,000	5,000	0
新 聞 図 書 費	10,000	10,000	0
雑 費	700,000	700,000	0
管 理 費	4,665,000	4,804,500	-139,500
給 料 手 当 費	1,375,000	1,250,000	125,000
福 利 厚 生 費	120,000	100,000	20,000
会 議 費	110,000	110,000	0
旅 費 交 通 費	200,000	200,000	0
通 信 運 搬 費	150,000	150,000	0
減 価 償 却 費	0	94,500	-94,500
消 耗 品 費	250,000	250,000	0
印 刷 製 本 費	100,000	60,000	40,000
光 熱 水 料 費	200,000	180,000	20,000
賃 借 料	1,300,000	1,200,000	100,000
租 税 公 課	5,000	5,000	0
委 託 費	850,000	1,200,000	-350,000
支 払 手 数 料	5,000	5,000	0
雑 費	0	0	0
経常費用計	21,181,000	21,690,500	-509,500
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計		0	0
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	992,000	2,143,852	-1,151,852
一般正味財産期末残高	992,000	2,143,852	-1,151,852
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	992,000	2,143,852	-1,151,852

## 資金調達及び設備投資の見込みについて

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

公益社団法人 顔と心と体研究会

### 1. 資金調達

活動の経費は、会費、寄付金、メイクボランティア事業の収益等により賄う予定（平成30年度収支予算書（案）参照）。

当期中における借入れの予定はない。

### 2. 設備投資

当期中における有形無形の固定資産等への重要な設備投資（除却又は売却を含む。）はない。

以 上